

令和 8(2026)年度

国際文化交流学部

学校推薦型選抜(公募制)

日本文化学科

国際コミュニケーション学科

入学試験問題

小論文 11:30～12:30(60 分)

令和8(2026)年度 学習院大学

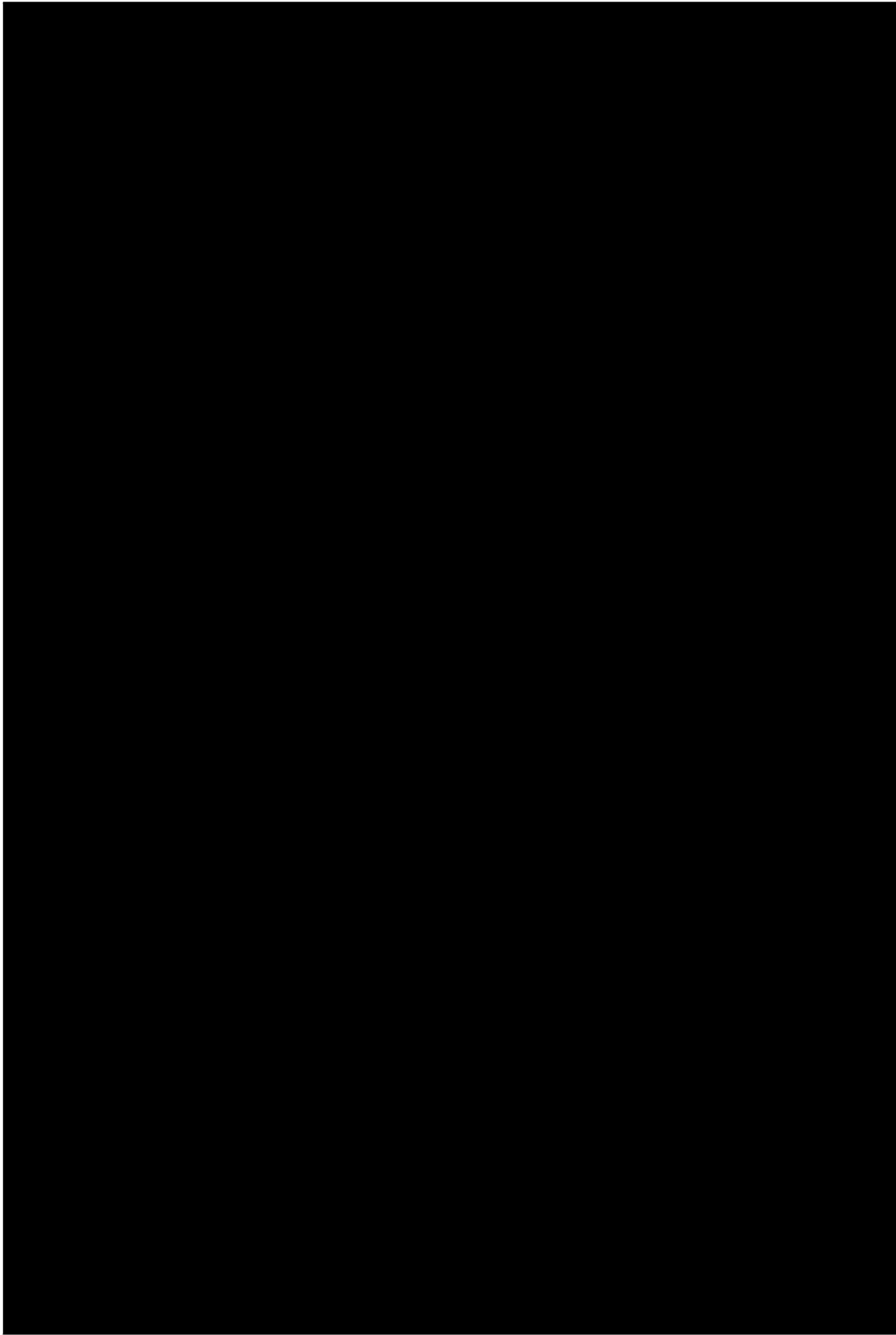
学校推薦型選抜(公募制)

小論文

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまでに、この注意をよく読んで間違いのないようにしてください。
2. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないでください。また解答用紙と下書き用紙は机の上に裏返しにしておいてください。
3. この問題の本文は2枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合は申し出てください。
4. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。解答用紙は1枚です。
5. 解答用紙とは別に、下書き用紙を1枚配布します。ただし、下書き用紙に記入された内容は答案とは見なされず、採点対象とはなりません。必ず解答用紙に清書してください。
6. 文字ははっきり書いてください。解答の文字が読みにくい場合、及び問題の指示に従っていない場合は点を与えないことがあります。
7. 解答用紙と下書き用紙には受験番号を必ず記入してください。
8. 解答用紙の評点欄には何も記入しないでください。

選 抜 区 分	学校推薦型選抜(公募制)	学 部	国際文化交流学部	学 科	日本文化学科 国際コミュニケーション学科
試 験 科 目	2025年11月29日 小 論 文	問題用紙		用 紙 枚 数	1枚目／2枚



次の文章を読み、課題一・課題二に答えなさい。

選 抜 区 分	学校推薦型選抜(公募制)	学 部	国際文化交流学部	学 科	日本文化学科 国際コミュニケーション学科
試 験 科 目	2025年11月29日 小 論 文	問題用紙		用 紙 枚 数	2枚目／2枚

課題一

本文の内容を二〇〇字～二五〇字で要約しなさい。

課題二

傍線部「ある状況においてあるタイプの痛みがいちばん痛みの少ない選択肢である場合、私たちの脳はそれを快いものととらえ、それを求めるよう仕向けさせる。」とあるが、人があえて痛みのある選択肢を選ぶとき、それはどのような役割を果たしていると考えられるか。あなた自身の経験または日常生活であなたが観察した具体例を一つあげて、四〇〇字～五五〇字で説明しなさい。

（モンテイ・ライマン（塩崎香織訳）『痛み、人間のすべてにつながる』みすず書房、二〇二四年）

(注意)・解答用紙及び下書き用紙の両方を必ず提出すること。・太線内は必ず記入すること。

学習院大学

選 抜 区 分	学校推薦型選抜(公募制)		学 部	国際文化交流学部		学 科	日本文化学科 国際コミュニケーション学科		受 験 番 号	
試 験 科 目	2025年11月29日 小 論 文			解答用紙				用 紙 枚 数	1枚／1枚	
									評 点	

課題一

▲
450

▲
300

▲
150

小計

課題二

▲
150

小計

【注意】題名や名前を解答用紙に書いてはいけません。・課題一及び課題二は必ず縦書きで記入してください。

學習院大學

選 抜 区 分	学校推薦型選抜(公募制)	学 部	国際文化交流学部	学 科	日本文化学科 国際コミュニケーション学科	受 験 番 号	
試 験 科 目	2025年11月29日		下書き用紙			用 紙 枚 数	1枚／1枚
						評 点	

課題一

▲ 450

▲ 300

▲ 150

▲ 150

小論文 出題の意図

入試年度：令和 8（2026）年度入学者選抜

選抜区分：学校推薦型選抜（公募制）

実施日：令和 7（2025）年 11 月 29 日

※「出題の意図」についての質問、照会には一切回答しません。

本文から、痛みが単なる苦痛ではなく、文脈によって快さへと転じる「快楽度の反転」という現象として説明されていることを読み取り、人間が苦痛を積極的に選ぶ際に想定される心理的メカニズムを考察することを求めた。限られた時間内で、本文の要点を的確に把握する能力、本文で呈示された科学的な知見を踏まえつつ、痛みと快楽の関係を自らの経験や日常的な事例に照らして論じる複眼的な思考力、文章を論理的に構成して表現する力を問う問題である。